

報道関係者各位

2018年8月16日  
BEENOS 株式会社

**BEENOS、ベトナム最大の CtoC マーケットプレイス「Sendo」に、  
ソフトバンクグループのソフトバンク・ベンチャーズ・コリアなどと共同で  
総額 5,100 万米ドル(約 56 億円)出資することを合意  
BEENOS のクロスボーダーE コマースとの事業連携も視野に**

BEENOS 株式会社(東証一部 3328、本社:東京都品川区、代表取締役:直井 聖太、以下:BEENOS)は、SBI ホールディングス株式会社、econtext Asia Limited(香港)、BEENEXT、ソフトバンク・ベンチャーズ・コリア、大和 PI パートナーズ株式会社、SKS Ventures(台湾)、FPT グループ(ベトナム)と共同で、ベトナム C2C マーケットプレイス最大手である Sen Do Technology Joint Stock Company(Sendo)の、総額 5,100 万米ドル(約 56 億円)相当の第三者割当増資を引き受けることを合意いたしました。今回、Sendo が調達する金額は、ベトナムスタートアップの資金調達としては最大級となります。

BEENOS は、SBI ホールディングス株式会社、econtext Asia Limited と 2014 年 12 月に Sendo に共同出資をし、FPT グループと共に Sendo を合弁事業化しております。今回の Sendo への出資は BEENOS としては追加での出資となり、出資比率は追加出資の前後ともに 5~10%内です。

## 1、Sendo について

Sendo(<https://www.sendo.vn/>)は FPT グループの一事業として 2012 年のサービス開始以降、個人や中小規模の商店に広く開かれたオンラインマーケットプレイスとして成長を続け、現在ではベトナム 63 省で約 30 万人の売り手が 1,000 万点を越える商品を販売しており、年間換算流通総額が 3.3 億米ドル(約 370 億円相当)となるベトナム最大手の C2C マーケットプレイスに成長しております。現金決済が主流であったベトナムの商慣習に合わせて、開業当初は大手物流業者と組んだ代引決済の仕組みをいち早く取り入れ、また 2015 年以降はオンライン決済事業免許を保有する子会社の SenPay を活用したモバイルウォレット機能を提供するなど、急速に進歩する各時代に即したサービスを提供することで、地方都市を含めたベトナム全土にて広く利用されております。今回の調達資金は Sendo のさらなる事業成長資金として活用されます。同社は今回の調達資金により、既存の C2C マーケットプレイス Sendo を拡大するとともに、B2C マーケットプレイス SenMall の立ち上げ、SenPay を通じたオンライン決済サービスの強化を計画しています。Sendo 社は、同社のプラットフォームでの流通総額を 2020 年には 10 億米ドル(約 1,110 億円)以上にするという中期目標を掲げており、その目標に向けて順調に推移しております。

## 2、追加出資の背景

BEENOS は、モノ・人・情報を「日本から海外へ」、「海外から日本へ」と双方向に繋ぐグローバルなビジネス展開を強みとしており、越境 EC 関連サービスの運営、インバウンド需要を見込んだ日本独自のコンテンツ商材の企画・開発、そして世界 11 カ国 80 社以上の企業への出資を行っています。

ベトナムの 2017 年の EC 市場は 22 億米ドル(約 2,400 億円)で、2026 年には 300 億米ドル(約 3.3 兆円)になると予想されています※。このようなベトナム EC 市場の伸びと、Sendo のフィンテックも含めたプラットフォーム上での価値向上の可能性を鑑み、BEENOS は追加出資を決定いたしました。今後、BEENOS は 19 年の EC ノウハウ・知見を活かし、Sendo とのクロスボーダー EC を通じた事業連携や EC に関連するナレッジ共有・技術連携を含め、株主かつ戦略パートナーとしてサポートしてまいります。

※Sendo 調べ

()内は、1米ドル=111円換算

【BEENOSの概要】

社名：BEENOS 株式会社

代表者：代表取締役社長 兼 グループ CEO 直井 聖太

本店所在地：東京都品川区北品川四丁目7番35号

設立年月：1999年11月

資本金：27億75百万円

以上